

2004年3月16日

会社名 株式会社 大丸
 コード番号 8234
 代表者名 取締役会長 奥田 務

2004年2月度 大丸 連結営業報告

1. セグメント別売上高対前年増減率(%)

	2 月 度	9 ~ 2 月 累 計
百貨店業	10.9	7.0
スーパーマーケット業	1.6	2.1
卸 売 業	9.0	5.4
その他事業	12.8	19.4
連結合計	7.2	3.1

(注) 売上高にはその他営業収入を含めていない。また、各事業の売上高には連結会社間の売上高を含む。

2. 百貨店業 売上高概況

1) 店舗別売上高対前年増減率(%)

	2 月 度		9 ~ 2 月 累 計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
心齋橋店	3.1	1.1	0.5	0.2
梅田店	5.2	0.7	1.2	0.2
東京店	0.3	0.1	1.7	2.9
京都店	3.9	6.8	0.7	5.2
山科店	4.3	-	1.7	-
神戸店	3.5	3.2	1.7	0.2
新長田店	5.4	-	7.8	-
須磨店	0.3	-	3.0	-
芦屋店	1.8	-	2.5	-
札幌店	-	-	-	-
直営10店舗計	12.9	-	9.1	-
" 除く札幌店	2.9	1.6	0.2	0.2
博多大丸	4.0	-	0.4	-
下関大丸	6.2	10.8	0.7	3.0
高知大丸	3.6	8.4	3.4	8.0
今治大丸	8.0	0.8	0.9	0.1
百貨店業合計	10.9(3.4)	-	7.0(0.2)	-

(注)・博多大丸は前年3月より長崎大丸を統合したため、対前年増減率は長崎大丸分を含む。
 ・直営店の入店客数合計の対前年増減率は、心齋橋、梅田、東京、京都、神戸の5店計である。
 ・百貨店合計売上高の()内数値は、除く札幌店の既存店対前年増減率。

2) 札幌店(単位:百万円、千人)

	2 月 度		9 ~ 2 月 累 計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
実 績	2,834	1,631	19,766	9,954

(注)・中間決算発表時に下期目標値を、従来の173億円から185億円に上方修正。

(売上動向)

- ・2月は25億円の目標に対して2,834百万円で13.4%増であった。
 9~2月累計では、上方修正した目標に対し、1,266百万円(6.8%)上回っている。
- ・商品別では、バレンタイン商戦の盛況、さらに雪まつり開催に伴う動員効果もあって食品およびレストランが好調であったのをはじめ、紳士服、婦人雑貨も目標を大きく上回った。

3) 直営店 商品別売上高対前年増減率(%)

	2 月 度		9 ~ 2 月 累 計	
	合計	除く札幌店	合計	除く札幌店
紳士服・洋品	1.7	4.8	6.0	0.5
婦人服・洋品	15.1	5.8	9.4	0.2
子供服・洋品	6.6	2.6	7.2	0.9
その他の衣料品	2.5	3.0	5.1	0.7
衣料品計	11.3	2.8	8.4	0.0
身の回り品	13.3	2.4	11.4	0.2
家具	7.4	1.5	10.1	2.5
家電	4.8	4.8	18.8	18.8
その他の家庭用品	9.8	3.7	5.5	0.1
家庭用品計	8.8	3.0	5.1	0.7
食 料 品	15.5	2.6	9.1	0.2
食堂・喫茶	20.9	4.9	17.9	6.3
雑 貨	9.6	2.8	7.8	1.8
サ ー ビ ス	44.1	39.6	39.9	36.2
そ の 他	42.7	24.3	6.4	0.8
合 計	12.9	2.9	9.1	0.2

3. 概況

1) 百貨店業

- ・ 2月の単体の売上高は、本年は閏年のため、営業日数が1日純増で日曜日であったことも加わり、対前年12.9%増、除く札幌店では、同2.9%増であった。
- ・ 商品別では、中旬からの気温上昇に伴い春物の婦人服をはじめハンドバッグ、婦人靴、婦人雑貨が活発に動いた。また、洋菓子もパレンティン商戦が盛況に推移したことで好調であった。
- ・ 関係百貨店では、下関大丸は小倉伊勢丹オープンの影響が懸念されたが、対抗策として打ち出した販促が奏効し、対前年を上回った(6.2%増)ほか、博多大丸をはじめ各店が前年を上回った。

2) その他

- ・ スーパーマーケット業の大丸ピーコックの売上高は、営業日数1日増の効果もあって対前年1.6%増であった。
食品は同1.9%増、衣料品、家庭用品など食品以外は同0.2%の微増であった。
地区別では関東地区が対前年4.9%増、一方、関西地区(千里プラザ除く)の売上は依然競合関係が厳しく3.7%減であった。
- ・ 卸売業の大丸興業売上高については、電子部品、住宅建設資材や繊維製品などの受注減により、対前年9.0%減であった。
- ・ その他事業が前年を大きく下回った(12.8%)のは、主に大丸装工による前年の札幌店内装工事受注の反動減による影響が大きい。

お問い合わせ先	株式会社 大丸グループ本社	広報・IR部
	TEL	06-6281-9002
	FAX	06-6245-1343